

公開講演会

チェルノブイリからフクシマへ — 原発事故の実情と教訓 —

講師 ヤブロコフ博士（ロシア科学アカデミー評議員）〈通訳付き〉

日時 5月19日（日） 13時30分～16時（開場13時）

会場 岩手大学工学部 テクノホール（工学部正門を入ってすぐ）

（参加費無料）

◆ アレクセイ・V・ヤブロコフ博士

1933年、モスクワ生まれ。ロシア科学アカデミー評議員、ロシア環境政策局創設者。かつてゴルバチョフ大統領の科学顧問を務める。欧州放射線リスク委員会（ECRR）共同創立者、アメリカ芸術科学アカデミー名誉会員、国際海洋哺乳類協会名誉会員、環境政連合グリーン・ロシア代表。動物学、核問題、農薬問題などの分野で著作多数。



1986年のチェルノブイリ原子力発電所事故の被害を巡っては、国連、IAEA（国際原子力機関）、WHO（世界保健機構）などによる“公式”な報告は組織的に事故の影響を過小評価し続けてきたため、被害の実態を知る医師や研究者たちが強く異を唱えるようになりました。ヤブロコフ博士を中心とする研究グループがそれらの声とデータを徹底的に拾い上げ、2009年に報告書『チェルノブイリ — 大惨事が人びとと環境におよぼした影響』にまとめました。この原発事故の放射能汚染による被害実態から、東京電力福島第一原発事故後の日本社会が学ぶべきものを語っていただきます。

今回、この報告書が翻訳出版され、また、ヤブロコフ博士が国際会議で来日されるという機会を捉えての講演会です。皆様のご参加をお待ちしております。

主催 日本科学者会議岩手支部、原発からの早期撤退を求める岩手県学識者の会
共催 岩手県保険医協会学術文化部、三陸の海を放射能から守る岩手の会、
岩手県反核医師歯科医師の会
後援 岩手大学、岩手県生活協同組合連合会、いわて生活協同組合、
岩手県学校生活協同組合、岩手県消費者団体連絡協議会、
盛岡医療生活協同組合、岩手大学生生活協同組合

問い合わせ先

日本科学者会議岩手支部（Tel 019-621-6551, Fax 019-621-6560, ttakei@iwate-u.ac.jp）

原発からの早期撤退を求める岩手県学識者の会（Tel 090-2958-1373, takatuka12521@yahoo.co.jp）